

授業科目	構音障害Ⅲ（器質性）				
担当者	藤原 百合				
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

器質性構音障害（口蓋裂）について、基礎的知識、口蓋裂に伴う様々な問題点や、チームアプローチについて学ぶ。また、鼻咽腔閉鎖機能検査や構音検査の実施、治療計画の立て方や構音訓練について学ぶ。

■ 到達目標

口蓋裂に伴う構音障害の評価・診断、指導・訓練に関する知識・技能・態度を身につける

■ 授業計画

- 第1回 正常な発話のプロセス：呼吸、発声、共鳴、構音
- 第2回 器質性構音障害の定義、原因疾患、発症メカニズム、関連障害
- 第3回 口蓋裂言語の特徴（発声、共鳴、構音）
- 第4回 評価：発話の聴覚的印象
- 第5回 評価：口腔顔面の形態・機能
- 第6回 評価：口蓋裂言語検査（ビデオ）
- 第7回 機器を用いた評価：鼻咽腔閉鎖機能、構音機能
- 第8回 器質的異常に対する医学的治療：外科的、歯科補綴の治療
- 第9回 言語治療：機能訓練
- 第10回 言語治療：系統的構音訓練、視覚的フィードバック訓練
- 第11回 口蓋裂に伴う問題：哺乳・離乳、発達、聴力、心理社会的問題
- 第12回 チーム医療、年齢による対応の変化
- 第13回 症例検討（グループ演習）
- 第14回 症例検討（グループ演習）
- 第15回 まとめ、国家試験過去問

■ 評価方法

筆記試験（90％） 演習（10％）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業前に教科書の該当箇所を読んでくること。

■ 教 科 書

書 名：標準言語聴覚診断学 発声発語障害学
 著者名：藤田郁代 監修 熊倉勇美、今井智子 編集
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：DVD 「目で見る日本語音の産生」「目で見る構音障害」
 著者名：藤原百合、山本一郎
 出版社：EPG 研究会

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

疑問点はその場で質問してください。応答を全員で共有したいと思います。